

農村地域の道路におけるロードキル多発地点の特色 A Characteristic of Points of Animal-car Accidents on Rural Roads

今井敏行 瓜生美奈子 笠原さおり 服部俊宏

IMAI Tosiya, URYU Minako, KASAHARA Saori, HATTORI Toshihiro

はじめに

農道整備において環境保全に配慮する必要性が高まり、平成10年度には「農道環境保全調査指針」が策定された。その有効性を高めるには十分な調査データの蓄積が必要である。特に動物のロードキルについてのデータは少ないので、十和田市周辺の一般道路で各種調査を行い、ロードキル発生地点の特色と共に調査方法の農道への適用性についても検討した。なお、ロードキルは、動物の生息域に道路が建設され、道路上に動物が侵入することによって発生し、動物の死亡による個体数や種の減少という生態系への影響が懸念されている。

調査方法

以上の目的を達成するために次の4つの調査を行った。

1. 十和田市へのロードキル死体処理依頼データによる多発地点調査
2. ロードキルの目撃・体験アンケート調査による多発路線調査
3. 青森県及び国の道路管理台帳によるロードキル多発区間調査
4. ロードキル多発地点の道路の特色を把握するための現地調査

結果・考察

1. ロードキル死体処理依頼データによる十和田市の多発地点の特色

平成9～13年度の十和田市内のロードキル件数は、140件であった。どの年度においても、ネコが最も多く、次にイヌが多かった。特に集中・多発地点はなく、市街地全体でロードキルが発生していたが、住宅地に多いのは、発見した付近住民が処理依頼したためと考えられる。農村部の道路調査には適さない方法である。

2. ロードキルの目撃・体験アンケート調査による多発路線の特色

(1)目撃・衝突個体種別集計結果：ネコとタヌキのロードキルが特に多かった。その他にもイヌ、ヘビ等様々な動物がロードキルに遭っていた。

(2)目撃・衝突路線別集計結果：国道338号線、国道45号線、国道4号線でロードキルの目撃・体験が多かった。この3路線以外の道路でも件数は少ないものの、ロードキルが目撃・体験されていた。

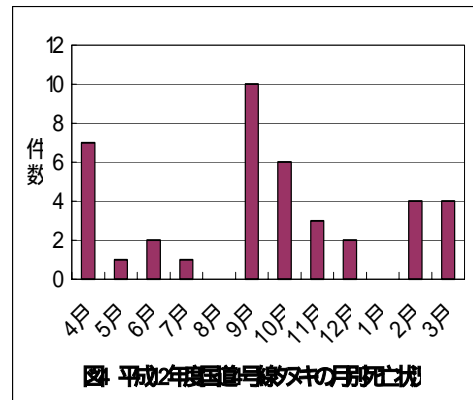
(3)アンケート調査の留意点：依頼者の走行路線の偏りや、同日・同地点で起きたロードキルを複数の者が目撃して記入した可能性もあり、注意する必要がある。

3. 道路管理台帳によるロードキル多発区間の特色

(1)県道等でのロードキル多発地点：青森県十和田土木事務所が管理する県道及び国道102号線と国道338号線はデータ数が少なく正確な位置がわからなかった。

(2)国道におけるロードキル多発区間の把握：国土交通省十和田国道維持出張所の国道4号線の管理区間と45号線のパトロール日誌には動物の個体種のみならず死亡動物等の発見地点の位置も正確に記されていた。

(3)考察：個体種別に集計すると、約半分の47%がネコであった。その次に多いのがタヌキで28%であった。ネコの場合、切羽詰ると敵に飛びかかってくる、敵の影に飛び込むという習性等が影響していると思われる。タヌキの場合、通常期の生活行動における道路横断、冬から春にかけての繁殖期における道路横断、9～11月にかけての分散行動に伴う道路横断(図1参照)、道路上の轢死体に誘引されることによる道路侵入といった行動習性の他にタヌキが人工物に対する恐れや違和感をあまり持っていないことや、危険に直面すると偽死状態になる習性もタヌキのロードキルが多い原因と考えられる。



4. ロードキル多発地点の現地調査

(1)国道338号線における現地調査：国道338号線は全体的に道幅が狭いが、大型トラックが多く走行し、スピードを出していた。道路に侵入した動物を発見しても避けきれなかったと考えられる。積雪時に道路の両側が森になっている区間で足跡調査を行ったところ、タヌキやキツネ、ウサギなどの足跡があり、道路を渡った形跡もあったことからタヌキなどの野生動物も多く生息していると考えられる。ロードキル件数の少ない農道でも積雪地帯では足跡から動物が道路に侵入して、ロードキルに遭遇する位置を推定することができることが判明した。

(2)国道4号線における現地調査：図2からロードキルが全く起きない区間や著しく多い区間は少なく、ほとんどの区間で1、2件のロードキルが発生していることが分かった。国道4号線の中でロードキル発生密度の高い24区(図3参照)は、見通しが良くスピードが出やすいこと、夜間照明がなく道路に動物が侵入しても発見が遅れてしまうこと等がこの区間でロードキルが多発する要因と考えられる。キロポスト670付近は、道路際に民家が多く人間に飼育されているネコ、イヌのロードキルが多い。キロポスト671付近はタヌキの死亡が多い地点であった。この地点には橋があり、道路際は森となっていた。積雪時に足跡調査を行ったが、どの足跡も古く進行方向など詳しくは分からなかった。しかし、足跡には特徴的な左右の乱れがあったので、タヌキのものと考えられる。このことから道路周辺の森にはタヌキが生息し、道路侵入時にロードキルに遭うものと考えられる。

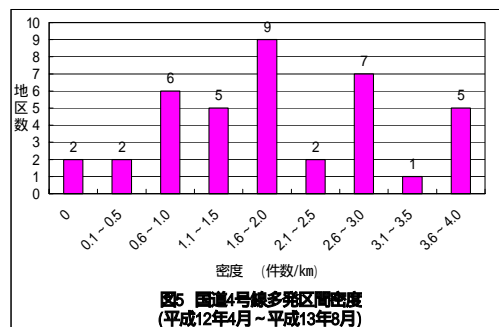


図3 国道4号・調査区間24区

．おわりに

ロードキル多発地点の特色を把握できた。青森県、国道事務所、十和田市など多くの方々の協力に感謝します。